

## 第 11 回 教育課程編成委員会 議事録

〔日 時〕 2021年3月16日(木) 16:25～17:10

〔場 所〕 厚木看護専門学校 会議室

〔出席者〕

### 〔委員〕

厚木医師会会長、厚木病院協会副会長、学識経験者、県看護協会県央副支部長  
東名厚木病院副院長、伊勢原協同病院看護部長、学校長、副学校長、看護第一学科長、  
看護第二学科長、学校総務課長

〔欠席者〕 厚木市市民健康部長

### < 学校長・挨拶 >

本日は、委員の皆さまよろしくお願いたします。この委員会は年 2 回開催しますが、7 月はコロナのため中止しました。代わりに委員の皆さまにご意見をいただく形での対応とさせていただきます。本日は、まだ緊急事態宣言も解除されていない状況で、お忙しい中、お集まりいただき本当にありがとうございます。

今年度、学校はいろいろと大変な状況でした。オンライン授業、実習についても中々受入れが難しく学内で実習を代替して、何とかカリキュラムを終わらせることができました。実習は、予定していた 2/3 位臨地で実習ができました。オンライン授業については、災害等も想定されますので、今後も定期的に組み入れることを計画しております。

コロナによって、wifi 環境の整備等 ICT に関連した県の補助金を活用して一気に進めることもできました。これからもピンチに屈せずに教育を進めていきたいと思ひます。

2022 年度から新しいカリキュラムになりますが、それに向けて今準備を進めています。現行のカリキュラムにおいて、いろいろと課題がありますので、皆さまからご意見をいただき、反映させたいと思ひます。気になりましたところを忌憚なくご意見いただければ、ありがたいと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。

### < 委員長 >

次第に基づいて説明させていただきます。資料は 4 部あり、ボリュームもございますので、まとめて説明した後に、質疑とさせていただきます。

資料 1 「2020 年度カリキュラム評価について」

資料 2 「次年度シラバスについて」

資料 3 「2020 年度卒業生の看護教育の技術に関する到達度評価について」

資料 4 「コロナ禍における授業評価、実習評価への影響について」

をそれぞれ看護第一学科 F 教員、看護第二学科 G 教員より説明

### < 委員長 >

以上で資料説明を終わりましたが、皆さまからご意見、ご質問ございましたら、お願いたします。

### < A 委員 >

高校でもオンライン授業は、課題でした。同じようにピンチがチャンスになるという側面もございまして、教員の ICT に関するスキルが上がる機会となりました。御校では、どのようなツールを活用し、授業を進めたのですか。

### < B 委員 >

Zoom を活用して、オンライン授業を行いました。外部講師については、最初はサブで

教員が付いて、授業を開始しました。学内に関しても慣れている教員と不慣れな教員がいましたので、学習会を複数回開き、授業を開始しました。3ヶ月位経過したところで、学生、教員双方を対象にアンケートを取り、改善すべき点を確認して、試行錯誤しながら、進めました。学生の方は、ご家族にも協力してもらいwifi環境整え、どうしても難しい学生には、登校して、情報科学室で個別に受けてもらう対応をしました。

<委員長>

学生全員がパソコンを持っているわけではなく、貸与もできなかったのが、学生によってはスマホですっと受けているというところも見られましたが、学生は、私達以上にこういうことに長けています。私達の方が学生に付いていく、という感じでした。

<B委員>

資料はドロップボックスを使い、最初は教員に入れてもらったのですが、慣れると学生の方がどんどん利用していました。

<委員長>

二科の学生は少し年齢が高いがどうでしたか。

<C委員>

初めに思っていたより困難感は無かったです。家庭の通信環境に不安な面がある学生もいましたが、オンラインもスムーズにできました。

<A委員>

3月位の頃はどの学校も復習をして終われば良かった。4月から新しくまだ全く習っていないことを始めていく。そうすると、教科書はありますが、その項目を先生が講義するという形の授業になります。もちろん双方向で対話ができる形で行いました。

<副委員長>

当校も全て、双方向でやらせていただいていたと思いますが、私が学生から情報収集してびっくりしたのは、今までノートの中々取れない学生が、オンライン授業の画面を見ながらワードを立ち上げ、その場で打ち込んでいきます。先生が話をしているスピードでキーを打つことができます。教員は、「学生が本当にできるんだろうか」と思っていたのですが、「先生達しっかり付いてきて下さい」という学生も全員ではありませんが居ました。ITに慣れており、検索もすごく上手ですし、少し方法の機会を見直させていただく機会となった印象です。

<A委員>

かなり早い段階から対面ができる形に移っていたのだと思いますが、オンラインでやっている時の評価をどういう形で行いましたか。

<B委員>

オンライン授業については、授業全体の2割、3割でしたので、オンラインのみの評価はしていません。評価基準を変えたところは、倫理学、哲学がオンラインで講義をやっている時間が無かったので、テストではなくレポートになりました。

<副委員長>

1授業受けたら、その授業のまとめを提出させました。その結果、文章を書く力が例年よりもつきました。その授業の中身について「何を学んだのか」1授業1枚はすごい量となりましたが、「文章を書く力が例年よりもついている」と先生達の評価が聞こえてきました。見る方はすごく大変だったと思いますが、副産物だったと思います。

<委員長>

学生達は、要約して「何を学んだのか」を書いていました。

<副委員長>

理解が追い付いていない学生を見分けることができました。これまで、まじめに授業を受けているけれど、テストの結果を見て愕然とすることがありました。毎日授業の要約を見ていると、「この学生は理解が追い付いていない」ということがわかり、それも副産物

でした。

<D 委員>

オンライン授業をやっている他校の話をも最近聞きました。学生により、きちんとオンラインで授業を受ける学生とそうでない学生とで差がついてしまうとのこと。厚木看護の話も聞いていますと、授業毎に確認作業をされるということで、オンラインでの授業内容をきちんとインプットされたのか、を確認することが必要だと思います。

解剖生理については D 評価が多いです。解剖生理は割と早い時期に学習します。人体の基礎としてしっかりと押さえておかないといけない分野です。オンライン授業の時期と重なってしまい、ちゃんと理解できなかったこともあるのでは。他校でも言っていましたので、そのあたりのフォローは何か工夫されたのでしょうか。

<B 委員>

再試が終わっていないところでの評価を載せているので、最終的に D 評価はもう少し少なくなる。解剖生理は、講師の方でも工夫して講義をしてもらっていますが、オンライン上だとわかりにくかったという学生もかなりいました。9月から対面授業になりましたが、6月中に何回か登校したときに、学習するのが難しいと言っている学生に対して、チューターが中心となってフォローしました。11月位から強化チーム的に解剖生理が苦手な学生を集めて、週1回程度専任教員がフォローしてきましたが、中々難しいところもありました。

<委員長>

解剖生理は、ネックとなり課題であることも確かです。今、カリキュラム外でも個別指導、オンラインでの問題集を取り入れて、学習機会を増やしています。

<B 委員>

具体的には1年生は、毎日朝10問くらい届き、それを解いてもらっています。

<副委員長>

ICTで教員たちが選んだ問題が自動的に彼らのipadなどにメールで届きます。それを返すことで、やった、やっていない学生がわかり、正解しているかもわかります。これもICTの一環として取り入れました。

<B 委員>

問題を返していないことがすぐにわかります。その後にもまた問題が届くようになっていますが、基礎学力が厳しいので、積み重ねも厳しい。そこも課題です。

<委員長>

取り組みの成果はまだ見えていませんが、教材を入れて、それを駆使しています。あとは習熟度別にクラス分けをしました。

<B 委員>

教室の運用を大教室と小教室で分けました。支援を要する学生を少人数制で授業を11月位から始め、工夫してみました。成果はこれからですが、学生からは大教室より資料も見やすい、集中して聴ける、と感想がありました。あとは低学力者向けの講義として、私たちが工夫をして成果を出すことが課題です。

<副委員長>

オンライン授業は、全て録画しました。その録画を見返せます。1回受けた授業があまりわからない時に、録画したものをまた見ることができるチャンスがあります。もう1回授業を再生できることは、中々対面授業ではできないフォローアップと考えます。

<E 保委員>

ICTを活用されて、今までと違った効果的な授業ができて良かったのでは、とすごく感じました。通常よりも実習の期間が短かったということで、通常卒業時までこれだけのものが身に付いてほしいな、やっぱりここが弱いなどそういった部分を教えてください。

<B 委員>

できるだけ臨床に近い形で教員が工夫して、技術も昨年臨床であまり経験できなかった内容が、逆に到達度が上がったりしています。

実習場面ではいろいろなことが起こり、いろいろな調整をしながら、患者さんに合わせ、個別性に合わせることを、苦勞しながら追求しています。臨地実習では調整能力やコミュニケーション力が求められ、苦勞しますが、そこは学内実習では限界がありました。学内の教員は身内なので、外に出て、社会人としての立ち振る舞いは、すごく経験が少ないので、これからだと思っています。

<委員長>

知らない人の中で、知らない環境でやるということが少なかった。ストレスフルな中でどう自分が振舞うか、どう話しかけようか、杞憂していたと思いますが、そういうことがかなり少なかった、数をこなせていなかったと思います。

<E 委員>

例年、心が折れてしまう時期での対応として、参考にしたかったです。

<委員長>

臨地の方でも新人受け入れにあたっていろいろ準備をされている、ということをお聞きしますので、よろしくお願いします。

さきほどシラバスの説明をしましたが、これは例です。他の科目についても同じように表示しております。「何を教えたか」ではなく、「何が身に付いたか、これを身に付けましょう」ということを併記しました。

今年度は、学校で教材購入が結構できました。新しい「シナリオ」というモデル人形は、いろいろな活用ができます。

<副委員長>

臨終の場面を再現できたり、突然急変するモードになり顔色が変わったり、患者さんの変化に関して、予想外のものを体験させることができます。ほかにインカムとこの人形を介して教員が受け答えすることで、さも喋っているように声を出したりもできます。これを学内実習で急な急変等計画通りではない患者さんの状態が起きた時に、どう調整をして、どう計画を変更するのか、というようなことを、多少今年よりも深めることができるかな、と考えています。

<委員長>

老人にもなるし、若人にもなる。パーツを変えることもできます。うまく活用していきたいです。臨終は、実習では中々体験できない。そこは学内でこうしたモデルを使って体験させていきたいです。高価な物なので1体のみですが。

<E 委員>

先日、日本看護協会のホームページを見たときに、今年の卒業生は実習経験を積みなかった部分があるので、卒業校の方でフォローアップすると話を伺ったのですが、こちらでの取り組みは。

<委員長>

県から通知が来ました。現実的には、他の学校も含めて卒業生を受け入れて、半分は自前で負担し、半分を補助していただく制度ですが、あまり評判は芳しくないようです。実際に手上げる学校がどれだけあるのか、わかりませんが当校は難しいと判断しました。

<副委員長>

大学の看護学部で臨地での実習が0というところが、2割くらいあるそうです。全くできなかった。そういう学校はすごくニーズが高いようですが、当校の場合3年生だけで見ると6から7割くらい臨地へ行けましたので、あえて手上げて、6から7割体験した卒業生と0の他校の卒業生を呼び、当校が企画するという選択に及びませんでした。よそでそういう企画があれば、うちの卒業生も行かせたいということはあるかもしれませんが、在校生も抱えて実習調整して、違う学校の卒業生の実習調整をすることは、現実的に難し

いと考えます。

<E 委員>

非現実的かもしれませんね。

<委員長>

3年生は6割くらいと言いましたが、1年生は全く臨地に行くことができませんでした。あとで話を聞きますと、本当に行きたそうでした。1年生は先があるので、3年生を優先させました。あと老人系の施設は受け入れが難しく、病院の方が受けていただくことができました。

<E 委員>

若い方は無症状であっても、感染力がありますので、心配ですね。

<委員長>

公平に実習機会を与えるというところでも、行けた人、行けない人、ということはないので、残念ですが、結局中止にしました。

<D 委員>

途中、途中で学校の方から調整が入り、通常は入らない月にも実習が入りました。近隣の大学も来ることができまして、極端に0は無いです。当院では、大学も60から70%は受け入れました。

<委員長>

最大限、実習を受け入れていただき、本当にありがたいと思っております。引き続きお願いします。今のところ、学生はワクチンを優先的には打てなく、一般人としての扱いです。3年生は実習前に打てません。終わる頃に打てれば、という感じだと思います。そのあたりが来年度の課題です。幸い誰も感染せず、発見されておられません。学生達もかなり気を使いながら毎日過ごしているので、気の毒な面もあります。まじめに昼食時も黙って、教室で食べています。

二科が今年で閉じます。先ほどの説明でも、二科はすごく成績が良かったです。最後で自分たちも後がないというところで、再試もほとんど無く、卒業することができました。その気になってやれば、すごいんだな、と思わされました。国試の発表がこれからですので、良いお知らせができるといいな、と思っています。

それでは、このあたりで終わりとします。皆さまありがとうございました。

以上